

## イザヤ書52章 「立ち上がるシオン、傷つくしもべ」

### 1A 贖われたエルサレム 1-12

#### 1B 再び着飾る都 1-2

#### 2B 無償の贖い 3-6

#### 4B 良い知らせ 7-10

#### 5B 汚れからの脱出 11-12

### 2A 高く上げられる方 13-15

## 本文

イザヤ書 52 章を開いてください。私たちの今晚の学びは、52 章だけ、一章分だけにします。53 章は、あまりにも内容の多い預言の章です。メシアが民の罪の身代わりに死なれたという、まさにイエスが十字架で成就された預言になっています。それは次回にして、52 章を見ていきます。

主が、残りの民、義を追い求める民に語りかけられました。ご自身の義が行われるのが近く、救いは近づいていると励まされました。すると彼らは叫びました、「目覚めよ、目覚めよ」。かつて、主が、エジプトから、力強い御腕で贖い出されたように、今、それをしてくださいと願っているのです。けれども主は、「あなたがたは、なぜまだ虚げに恐れているのか」と逆に問いかけられます。主が力強い働きをしてくださいと願っているのですが、まだ虚げる者を恐れているので、わたしを信頼しなさいと呼びかけておられるのです。

そこで主は、今度はご自身が、民に「目覚めよ、目覚めよ」と呼びかけておられました。そして、エルサレムが確かに憤りの杯を飲んだと言われます。それは、主の御怒りが、彼らの背きの罪のために表れて、それでバビロンに捕え移されたことです。そしてそれが、終わりの日に、民が大きな患難を通る預言へと移っています。彼らを虚げて、彼らが悩んでいたものを、今度は悩ますものに憤りの大杯を渡すと言われています。彼らは終わりの日に大迫害を受けますが、その復讐を主が、彼らを苦しめる者たちに行われるということです。

### 1A 贖われたエルサレム 1-12

そこで主は、敵を滅ぼされた後で、塵の中に伏しているエルサレムを立ち上がらせるべく、呼びかけられます。

#### 1B 再び着飾る都 1-2

<sup>1</sup> 目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、シオンよ。あなたの美しい衣をまとえ、聖なる都エルサレムよ。無割礼の汚れた者は、もう二度とあなたの中に入っては来ない。<sup>2</sup> ちりを払い落として立ち上がり、

元の座に着け、エルサレムよ。あなたの首からかせを振りほどけ、捕らわれの女、娘シオンよ。

52 章 17 節に引き続き、シオン、すなわちエルサレムに対して、目覚めよ、目覚めよと呼びかけています。51 章では、主の憤りの杯を飲み干したエルサレムがいました。しかし、今、その惨めな姿から立ち上がって、美しい頃を身にまといなさいと言われていています。そして元の座に着きます。

エゼキエルは、主から、イスラエルが、ダビデとソロモンの時代のことを、女王の座に着いたようにして、幻が与えられていました。16 章ですが、カナン人の間でアブラハム、イサク、ヤコブの家族が住んでいた時は、まるで、母が産み落として、そのまま捨ててしまった赤子のように表現しています。「16:4 あなたの生まれについて言えば、あなたが生まれた日に、あなたは、へその緒を切られず、水で洗いきよめられず、塩でこすられず、布で包まれることもなかった。」そこで主が通りがかって、その子に生きよと呼びかけ、育て上げたとあります。それがエジプトで奴隷として生きている時に、人数が増えていった時のことです。そして、彼女は成熟して、乳房もふくらみ、髪も伸びていましたが、まだ丸裸だったのです。それで、主が衣の裾を広げて裸を覆って、契りを結んだとあります。それが、エジプトから連れ出して、シナイ山のふもとで契約を結んだ時のことです。

それから、約束の地に入り、士師の時代を経て、ダビデが王として立てられ、ソロモンの時に栄えたのを、その女が女王になる姿として描いています。「16:9-14 わたしはあなたを水で洗い、あなたの血を洗い落とし、あなたに油を塗った。10 わたしはまた、あや織りの衣服をあなたに着せ、じゅごんの皮の履き物をはかせ、亜麻布をかぶらせ、絹物でおおった。11 それから、わたしは飾り物であなたを飾り、腕には腕輪をはめ、首には首飾りをかけ、12 鼻には鼻輪、両耳には耳輪を着け、頭には輝かしい冠をかぶらせた。13 あなたは金や銀で飾られ、亜麻布や絹やあや織物を着て、上等の小麦粉や蜜や油を食べた。こうして、あなたは非常に美しくなり、女王の位に進んだ。14 あなたの美しさのゆえに、あなたの名は国々の間に広まった。それは、わたしがあなたにまとわせた、わたしの飾り物が完全であったからだ——【神】である主のことば。」

これが神の行われた恵みのわざです。これと同じようなことを、パウロはエペソの人々に話しました。罪の中で生きて、霊的には死んでいた者たちを、ご自分の憐れみによって生かして、キリストにあって生かして、栄光を与えました。「エペ 2:1-6 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。3 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、5 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。6 神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいま

した。」天上の座にキリストにあって着くようにされたのですが、イスラエルの着飾った女王の姿に通じるものがあります。

エゼキエルの預言に戻りますが、その後になんと彼女は、次々と通りがかりの男たちと姦淫をしていきます。男の像とも通じました。これは、イスラエルが強くなり、豊かになっていた時に、周囲の国々と同じように偶像礼拝を行っていったということです。そして、主なる神に頼らずに、周りの外国に頼っていった姿です。最後は遊女になりますが、遊女の場合は、自分の淫行に対して自分が対価を受け取ります。ところが、イスラエルの場合は、自分がお金を払って男と関係を持つという状態になっていると嘆きます。アッシリアなど、自分たちの金銀を使って、自分たちを守ってもらおうとしていました。それで、最後は全ての男から見捨てられ、彼らは敵になり、エルサレムを攻め込むという内容になっています。

これが、本文、イザヤの預言で「無割礼の汚れ」と言われている所以です。異邦人によって凌辱された、また自ら凌辱されたということです。十戒にも、姦淫してはならないとありますが、主が性を造られたからであり、その部分は神聖なところ、犯されてはいけないところなのです。ですから、それが破られると、その人格の深い部分が傷つきます。結婚前のカウンセリングで、若い男女に恐れが出てくることがあります。不安になる人は、自分の性についての自尊心が揺らいでいます。なぜなら、過去の他の男性あるいは女性と関係を持っていたからです。このように、私たちの尊厳が損なわれて、不安定になります。一度、自分の内にある、犯されてはならない部分を失ってしまったことは、美しく着飾った女が、男に凌辱されたようになり、心に深い傷を残します。

しかし、そこから主が、彼らの魂を慰め、癒し、立ち上がらせようとしておられるのです。私たちが罪を犯して、その傷は深く残っていますが、しかし、主が何度も何度も、目覚めよと呼びかけてくださり、塵の中から立ち上がり、鎖を解き放つようにさせていただきます。

そして、ここで、「美しい衣をまとえ、聖なる都」と言っていることに注目してください。この比喻は、美しい女王としての衣装だけではなく、祭司の装束のことも指しています。出エジプト記 28 章で、神がモーセに大祭司の装束について教えられました。2 節「あなたの兄弟アロンのために、栄光と美を表す聖なる装束を作れ。」と仰せになりました。その装束が神の栄光を表しているのです。聖なるものであり、かつ美しいのです。聖なるものになるように、主は私たちを、そうした傷を癒し、汚れを洗い清め、徐々に手直しして、聖なる祭司の装束を着るようにしていただきます。

この二つの意味合いがあって、パウロは、夫と妻の関係をキリストと教会の関係を示しているとして、主の前に出る私たちを、花婿の前に表れる花嫁として描いているのです。「エペ 5:26-27 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもち、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものと

なった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」

## 2B 無償の贖い 3-6

<sup>3</sup> まことに、主はこう言われる。「あなたがたは、ただで売られた。だから、金を払わずに買い戻される」と。<sup>4</sup> まことに、神である主はこう言われる。「わたしの民は初め、エジプトに下って行って、そこに寄留した。また、アッシリア人がゆえなく彼らを苦しめた。

イスラエルがエジプトで奴隷状態になりました。またアッシリアやバビロンに捕え移されました。奴隷というのは、買い取る人がいて、それ相応の対価を支払って買い取るのですが、彼らは、そのようなものではなく、ただで売られていったのです。ひどい話です。このような屈辱をイスラエルは味わっており、その尊厳が取り戻されるのは、その屈辱にありあまるほどに凌駕する恵みがなければいけません。

それが、ここで言っている「金を払わずに買い戻される」ということです。つまり、イスラエルがエジプトから贖い出される時、またアッシリアやバビロンから彼らを贖い出される時に、彼らに対価を支払わなかったということでもあります。また、ユダヤ人たちも自分たちが贖われるために、神に対価を支払うことがないということです。全く無償で、とてつもなく高価な贖いをしてくださしました。例えば、傷ついて、何も無い人に、ある人、あるいはある人たちが、すべて必要な生活費や新居を与え、それだけでなく、世界一周の豪華な旅を、すべて無償で与えたとします。これほどの恵みはないでしょう！しかし、それを主が、私たちのためにしてくださったということです。「ロマ 3:23-24 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。」価なしに義と認められるのです。そして、主は黙示録の最後で言われました、「22:17 渇く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。」いのちの水は、ただで受けるのです。

<sup>5</sup> さあ今、ここでわたしは何をしよう——主のことば——。わたしの民はただで奪い取られ、彼らの支配者たちは悲しみ嘆いている——主のことば——。また、わたしの名は一日中、絶えず侮られている。

イスラエルの民が虐げられている時に、神の名が侮られています。パロは、「主とは何者だ。(出エジプト 5:2)」と言いましたし、アッシリアのラブシャケも、「国々の神々がアッシリアの王の手から救い出せなかったのに、主がエルサレムを私の手から救い出すとでもいうのか。(36:18-20 参照)」と言いました。主の名が侮られているのです。

<sup>6</sup> それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るようになる。それゆえ、その日彼らは、わたしが『ここにわたしがいる』と告げる者であることを知るようになる。」

主が、メシアを遣わされます。そしてそのメシアが彼らの間にいることによって、主ご自身が「ここにわたしがいる」と告げてくださるのです。そうです主イエス・キリストです。イエス様が、民の只中におられました。そして、「ここにわたしがいる」と告げて下さいました。「わたしだ」と主は弟子たちに呼びかけられました(ヨハネ 6:20)、主は彼らに何度も何度も、ご自身がそこにいることによって、神の御名を彼らに知らせていたのです。

#### 4B 良い知らせ 7-10

<sup>7</sup> 良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあつて、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。

これは、主が再臨される時に、人々がシオンに主が来られたことを喜んで、言い広めている預言であると同時に、主が初めに来られた時、そしてよみがえられた時に実現したみことばであります。パウロがロマ 10 章で引用しています。「ロマ 10:15 遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。」

私たちは初めに良き知らせを伝えていった女たち、甦られたイエスに会った女たちのことを思います。女たちが、イエスの墓のところに行き、石が転がしてあり、お体がなく途方にくれていました。そして、そこに光輝く二人の人がいました。それで、彼らが彼女たちに言いました。「ルカ 24:5-8 あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出さない。人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」彼女たちはイエスのことばを思い出した。」それで、女たちはイエスのみことばを思い出しています。そして、彼女たちは、「24:9 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。」ここです、女たちの足が使徒たちのところに動いたのです。このとてつもない良い知らせを、自分たちのところで抑えることはできず、急いで弟子たちのところに戻ったのでしょう。

イエスの復活こそが、良き知らせ、福音です。こんなにすごい話はない、こんな喜ばしい話はないということで、一目散に伝えにいく人たちの足を美しいと言っています。私たちは、足はそんなに美しいと思いませんね。けれども、それを宣べ伝えている者たちについて、それは美しいとみなしておられるのです。主がよみがえられ、そしてこの方が事実、神の御子であり、来るべきキリストなのだということが明らかにされたのです。

「あなたの神は王であられる」というのが、良い知らせの内容です。イエスがよみがえられたことによって、確かに神の御子である方がキリスト、王となられることが示されます。目で見える形では、

再臨を待ちます。

<sup>8</sup> あなたの見張りの声とする。彼らは声を張り上げ、ともに喜び歌っている。彼らは、主がシオンに戻られるのを 目の当りにするからだ。<sup>9</sup> エルサレムの廃墟よ、ともに大声をあげて喜び歌え。主がその民を慰め、エルサレムを贖われたからだ。

イスラエルの人々を見張っている人々が、つまり、いつも関心をもって見てきた人々が、彼らにメシアがやってきたこと、贖いが来たことを、共に喜んでいますが、そして、エルサレム自体も共に喜びなさいと勧めています。そう、意外に、慰めを受けている主体が、その慰めと贖いのすばらしさに気づいていないことがあるからです。

これは福音の面で、また現代のイスラエル建国の面で、それから再臨において預言の成就が見えるでしょう。福音は、エルサレムに主イエスが来られて、よみがえられたことによって、確かにイスラエルにメシアが来られて、贖いが来たのだと喜んでいる人々の姿ですね。けれども、エルサレムが廃墟だったというわけではありません。それが見えたのは、今のイスラエル国です。廃墟から回復して、イスラエルのことを祈ってきた人々は、聖書預言を信じてきたクリスチャンたちは、大いに喜んでいますが、そして、エルサレム自体も、自分たちの回復に気づき喜んでいますが。

けれどももちろん、完全な慰めと贖いは、主が来られてからです。福音は、ユダヤ人から異邦人に伝わり、世界に伝わっています。けれども、ユダヤ人の多くはまだ福音を信じていません。しかし、主が再び来られた時に、残されたイスラエルのすべてが信じて、救われます。

<sup>10</sup> 主はすべての国々の目の前に 聖なる御腕を現された。地の果てのすべての者が 私たちの神の救いを見る。

イザヤを通して、主がご自分を啓示される時、それがイスラエルにとっての救いだけではないことを、何度となく話しておられることに気づくべきだと思います。主が、出エジプトの時に力ある腕を現してくださいましたが、それで周囲の国々の人々が、主なる神がおられることを知りました。エリコの住民ラハブが、そのことを証言しています。同じように、主が再び来られる時に、イスラエルが贖われますが、その時に地の果てのすべての人々が神の救いを見ます。もちろん今、福音によって、すべての国の人たちが神の救いを知りますが、目で見える形では、再臨の時です。

「聖なる御腕」とあります。聖なる神の姿が前面に表れて、それで御力が現れます。黙示録で、大患難の中で殉教した聖徒たちが、天において賛美しています。「黙 15:4 主よ、あなたを恐れず、御名をあげない者がいるでしょうか。あなただけが聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが明らかにされたからです。」神の正しく裁

かれる姿は、聖なる神のそれを示しています。

#### 5B 汚れからの脱出 11-12

<sup>11</sup> 去れ、去れ。そこから出て行け。汚れたものに触れてはならない。その中から出て行き、身を清めよ。主の器を運ぶ者たちよ。

ペルシアによってバビロンにいるユダヤ人が解放されます。ですから、そこから出るように促されたことが背景です。けれどもここは、単にバビロンからの帰還のみならず、終わりの日に離散の民がエルサレムに戻ることを促している預言でもあります。霊的には、バビロンというこの世、その汚れた都に生きていて、そこから去り、聖なる都エルサレムに向かうことへの促しでもあります。黙示録 18 章で、大淫婦バビロンが一日にして倒れますが、天からの声がします。「黙 18:4 わたしの民は、この女の罪に関わらないように、その災害に巻き込まれないように、彼女のところから出て行きなさい。」

使徒パウロは、これを私たち主に仕える者たちに対して語る時に、意識していたと思います。「Ⅱテモ 2:19-21 しかし、神の堅固な土台は据えられていて、そこに次のような銘が刻まれています。「主はご自分に属する者を知っておられる。」また、「主の御名を呼ぶ者はみな、不義を離れよ。」大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用いられます。ですから、だれでもこれらのことから離れて自分自身をきよめるなら、その人は尊いことに用いられる器となります。すなわち、聖なるものとされ、主人にとって役に立つもの、あらゆる良い働きに備えられたものとなるのです。」そしてテモテに、若い頃の情欲から離れなさい、と勧めています。このイザヤ書では、主の器をになう者たちが、そこから出て行きなさいと言っていますが、それは神殿で使われる器のことです。けれどもここテモテへの手紙第二では、自分自身の体を主の器と言っています。私たちが、主にあって自分自身をきよめているなら、主に用いられる尊い器になる。もしそうでなければ、用いられないということです。

<sup>12</sup> あなたがたは慌てて出なくてもよい。逃げるように去らなくてもよい。主があなたがたの前を進み、イスラエルの神がしんがりとなられるからだ。

とても興味深いです。確かにバビロンが倒れた時に、ペルシアの王キュロスは布告を出して、ユダヤ人たちが慌てて逃げるまでもなく、ちゃんと準備をして帰還することになります。エズラ記で見られるように、主の恵みの御手が彼の上に置かれて、無事にエルサレムに帰れました。

霊的にも、知恵があります。解放は、慌てなくとも主のご臨在の中で行われるということです。新たに生まれた人は、自分が置かれている周りの環境に過敏に反応します。こんな罪深いところにいたら、私は救いを失ってしまうかもしれない、という不安を抱きます。また、これまで行なっていた

悪習慣もどのように断ち切ったらいいか思いあぐねて、かえって不安になります。けれども、主はおられるのです。コリント第一 7 章で、奴隷の人がすぐに奴隷状態から解放されなければいけないと感じました。また異邦人なのに割礼を受けた人は、「これはいけない、割礼の跡を消さないといけない。」と言いました。けれども主は、「それぞれ自分が召されたときの状態にとどまっていなさい。(20 節)」と勧めました。

## **2A 高く上げられる方 13-15**

<sup>13</sup>「見よ、わたしのしもべは栄える。彼は高められて上げられ、きわめて高くなる。<sup>14</sup> 多くの者があなたを見て驚き恐れたように、その顔だちは損なわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。

主のしもべについての預言が、織りなすように行われてきたことを見ました。矢筒に隠した矢のように、みことばを語られること、へりくだった、しもべの姿から始まり、耳が開かれて、人々に罵られ、暴力を受けるしもべの姿がありました。ここからは、驚愕の預言が始まります。それが、十字架につけられたしもべの姿です。主が、エルサレムに來られて間もなくして十字架につけられる時に、こう言われました。「ヨハ 12:32-33 「わたしが地上から上げられるとき、わたしはすべての人を自分のもとに引き寄せます。」これは、ご自分がどのような死に方で死ぬことになるかを示して、言われたのである。」引き上げられるという言葉は、十字架につけられて、上げられるということとして、ヨハネが解説しているのです。

この上げられた方が、すべての人が見るようになります。それは主が、すべての目が見るようにして來られるからです。そうすると、人々が驚き恐れるのだということです。それは、顔立ちが損なわれて人のようではなく、人の子らとは違うということです。黙示録で、イエス・キリストが子羊とずっと呼ばれています。復活をされ、栄光の姿で現れる時に、十字架の傷をもったまま來られるということでもあります。

主は、こぶしで殴られ、そしてポンテオ・ピラトのところに連れて行かれ、無罪にするからと言っても、ユダヤ人たちが死刑にしろと要求します。それで、鞭打ちによって懲らしめて、それで彼らの怒りと妬みを宥めようと試みます。その鞭打ちの時、その 40 回の鞭打ちがイエス様の背中を始め、体のあらゆる部分、顔も含めて引き裂かれたのです。ピラトが、「さあ、この人です。(ヨハネ 19:5)」と言いましたが、その時のイエスの顔はもう人の顔のようではなかったのです。

<sup>15</sup> そのように、彼は多くの国々に血を振りまく。王たちは彼の前で口をつぐむ。彼らが告げられていないことを見、聞いたこともないことを悟るからだ。」

主が栄光の姿で、地上に戻られる時に、王の王、主の主として來られます。そして、その方が、



このようにして、無残な形で血を流された方であることを知って、口を押えて、驚愕するのです。だが、栄光の王がそのようになっていると想像できるでしょうか？

これが、神の知恵なのです。パウロが、こう述べています。「I コリ 2:8-9 この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。」すべての人を救う義、平和をもたらす王がやってきます。けれども、この方は、世の指導者らに棄てられた方だったのです。こんなことは、ありえないということを、主はあえて行われました。そのことが、主が再び来られる時に、はっきりと示されます。

すごいことです。私たちは御霊によって、この奥義を知るようにしてくださいました。そして、この52章は、エルサレムが深く傷ついているところから、始まりましたね。その傷を身代わりに、主のしもべが受けられるというのが、これからの話になります。私たちを、罪による深い傷を癒し、何度も慰められるのは、そこに身代わりに傷を受けてくださった方がおられるからです。